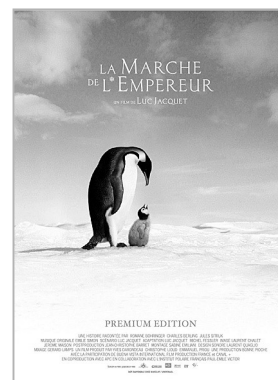


『皇帝ペンギン』

2005年／フランス／リュック・ジャケ監督作品

この地球に生きているのは… はるか遠い南極に思いを馳せて

会員 新妻 佳代 (60期)



「皇帝ペンギン
プレミアム・エディション」
発売中
価 格：4,935円(税込)
発売元：スタイルジャム、アー
ティストフィルム
販売元：ジェネオン エンタテ
インメント

この映画は、あまり期待しないで映画館に観に行っ
たところ予想以上に良く、思わずDVDを買ってしまった
映画である。

ストーリーは、大雑把に言えば、南極に生息する皇
帝ペンギンの繁殖の過程である。そう言ってしまうと
非常に味気なく、ただの観察記録じゃないか、と思っ
てしまうところだが、そうでないところがこの映画の
良さなのである。

まず、映像がとにかく美しい。南極の水、海、太陽、
星、そこで生活しているペンギン…、切り取った一つ
一つの風景はまるで絵のようだ。そして、フランス語
の台詞がこれまた良い味を出している。台詞といっ
ても、ペンギンを擬人化してドラマを人為的に作り上
げるといったものではない。台詞の多くは、ペンギンの
生態の説明のような感じで、静かに淡々と語られてい
る。ただ、この映画が単なるドキュメンタリーではな
くアートだなあと思うところは、台詞がとても詩的な
ところだ。

皇帝ペンギンは、繁殖・子育ての為、海辺から内陸
の繁殖地に向けて行進し、繁殖地で卵を産む。卵は厳
しい寒さにさらされぬよう、脚の上ののせて腹の下で
温める。卵を産んだ雌は、海に出て食べ物を探しに行
くので、その間は、雄が卵を温める。卵を雌から雄へ
移す作業は大仕事だ。中には上手くバトンタッチでき
ず卵を地面に落としてしまい、卵が凍り付いて死んで
しまうカップルもいる。

空腹の中（雄は約120日間断食する）、吹きすさぶ
ブリザードにも耐え、卵を抱き続けた後、ヒナが生ま
れる。ヒナのかわいいことといたら…。ヒナの可愛
さは、やはりこの映画の最大の見せ場だろう。どの動
物も、赤ちゃんというのは誰がみても可愛いと思うよ
うに出来ているに違いない。

はるか遠い南極で、毎年皇帝ペンギンがこうやって
子供を生み育てているんだなあと思いを馳せるだけで、
慌ただしい日常の中、フッと肩の力が抜けるような気が
する。この地球で生きているのは人間だけではないのだ。